

若手医師の会

6月15日(日) 15:00～16:05 第5会場

ひらめきが医療を変える！ ～消化器診療と未来のテクノロジー～

診療や研究、教育——医師として歩む道はさまざまですが、今の時代、その枠を越えたキャリアの選択肢も確実に広がっています。中でも、近年注目を集めているのが、医師自身の現場経験や発想をもとに医療テクノロジーを開発するという道です。

今回の若手医師の会では、まさにその分野で活躍されている、お二人の消化器医を講師にお迎えし、医療機器やAIの開発に至った背景、開発プロセス、臨床や教育現場への応用について、リアルな経験談とともにご紹介いただきます。

「専門的な知識がないと関われないのでは？」

「技術開発って、研究者の領域では？」

そんな風に感じる若手医師の皆さんにも、「自分にもできるかもしれない！」と視野が広がる時間になるはずです。

ひらめきと現場の視点が、未来の医療を変えていく——

そんな挑戦の先にある、新たなキャリアの可能性を一緒にのぞいてみませんか？

講師：○鳥取大学医学部医学教育学講座

学長特別補佐

医学部附属病院 新規医療研究推進センター

植木 賢 教授

駆け出しの内視鏡医にとって、実際に患者さんに内視鏡を行う前に何らかのシミュレーターを使ったトレーニングを行っていても、シミュレーターと実際の患者さんでは全く違う、と感じた経験は少なからずあるのではないのでしょうか。植木教授は、リアルな外観や内部構造を再現し、生体反応を感じながら内視鏡トレーニングができるシミュレーターロボットなど、医師の技術向上に貢献する様々な機器を発明されており、これまでに特許 57 件の出願を行い、鳥取大学病院において各診療科の先生たちと連携して 12 年間で 27 件の製品化を達成されました。操作の難しい大腸内視鏡シミュレーターや起業した消化器内科医のご紹介を交え、臨床医が医療機器開発に関わることの魅力をお話いただけますので、ぜひ植木教授からそのワクワクを感じ取っていただきたいと思います。



講師：○岡山大学学術研究院医歯薬学域 実践地域内視鏡学講座

河原 祥朗 教授

早期胃癌の内視鏡深達度診断は、内視鏡診療を行う者には必要な能力でありながら個々の医師の経験値によりその精度にばらつきが生じやすいのも事実です。河原教授は、医療分野においても注目を集めている人工知能（AI）を用いて、早期胃癌の内視鏡診断システムを開発されました。このシステムにより患者さんにはより確実な治療法選択のご提案が、医師には自身の診断へのフィードバックによる診断能の向上が期待できる、等多くのメリットがあると想像します。河原教授のお話をヒントに、若い先生方にもぜひ医療における多様な AI 活用の道を拓いていただければと思います。

